

シロチドリ



平成27年11月13日発行

第1回在宅医療連携勉強会

在宅ネットあらか運営委員会 副委員長 中村 光成

9月18日(金)、第1回となる在宅医療連携勉強会を開催させていただきました。急な連絡にもかかわらず、13人の先生方の参加をいただきありがとうございました。今回は2月に開所いたしました荒尾市在宅医療連携室「在宅ネットあらか」の活動状況を踏まえ、8月に施行させていただきました在宅医療アンケート結果の集計結果の報告と、荒尾市における今後の在宅医療への取り組みについて、医師会会員内での意見交換をさせていただきました。

アンケートは42施設中の34件(81.0%)から回答をいただきましたが、4月に配布いたしました医療連携ノートの内容と合わせて解析しましたところ、訪問診療と往診を行っている施設が18件(42.9%)、往診のみが7件(16.7%)、在宅医療を行っていない施設は17件(40.4%)という結果でした。【図1】

在宅医療を行っている25件(59.5%)のうち、病院が2件、有床診療所が10件、無床診療所が13件で診療科目は内科(15)、外科(3)、整形(2)、脳外科(1)、眼科(2)、皮膚科(1)、耳鼻科(1)、となっています。【図2】11件の施設で在宅支援診療所の算定をされており、年間1~9人の看取りを15件の施設で行われていました。12件の施設では癌も含めた終末期医療に取り組んでいるとの回答がありました。6割近い施設で終末期を含めた何らかの在宅医療に取り組まれている現状が確認できましたが、荒尾市医師会会員のこの6ヶ月での在宅ネットあらかの利用は1件に止まっています。在宅ネットあらかへの相談自体は全体で34件あり、そのうち2件に関してははかかりつけ医の紹介に繋がっています。

図1

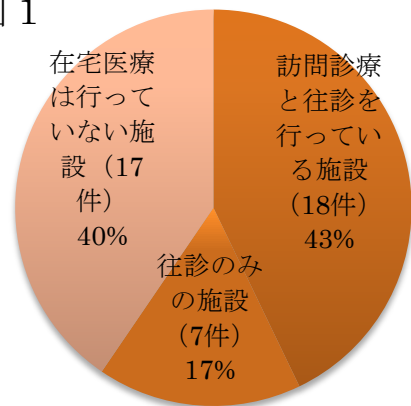
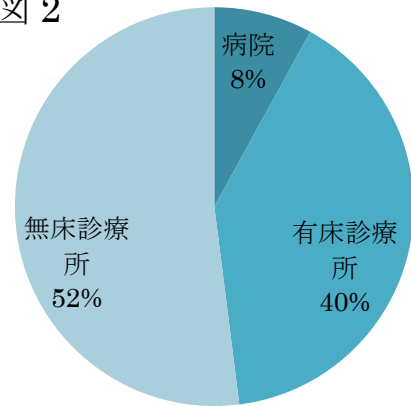
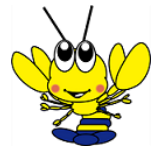


図2



意見交換の場では、専門的に在宅医療に取り組むのは二の足が踏まれるが、少ないが需要もあるので、在宅医療に関しては興味を持っており、実際に往診などは行っているという意見が比較的多く出されていました。その他、在宅医療の現状や今後の課題についても多くの意見が出されましたが、最終的には、在宅医療に関心を持たれている先生方が気軽に参加できるような勉強会を2ヶ月に一回

開催し、気になる事例登録を適宜「在宅ネットあらか」に登録していく体制を整えようということで、参加していただいた先生方の合意を得られました。今後、在宅ネットあらかがより医師会会員の役に立ち、地域の医療連携に資するようにさらに体制を整えていきたいと存じますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



第7回事例検討会開催!

「難病により寝たきりであるが在宅生活を維持している事例
～医療と介護、家族との連携を考える～」

特定医療法人杏林会鴻江病院 副院長 野口大介

平成27年10月7日の荒尾市在宅医療事例検討会において報告を行った。本事例は、脊髄小脳変性症をもつ70代・男性が、医療ニーズ、介護ニーズが増大していく中で、主介護者の妻、主治医、医療機関、介護サービス事業所が連携し、在宅生活を6年維持している事例である。

この事例の特徴は3つある。その1つは入院時に、在宅へ向け、徹底した個別的退院指導を行った点である。急性期病院での妻への退院指導だけでは妻が退院に踏み切れなかった。そのため、担当ケアマネジャーより、鴻江病院転院調整がされた。転院となった後、病棟スタッフの懸命な指導と十数ページに及ぶマニュアルを妻と共に作成した。理解力や体力、経済力等の個人差や様々な不安が退院への障壁となる。入院中から、退院へ向け、その個人差に応じた、かつ、不安に対しての現実的な指導や調整が必要になる。それがきちんと実践されたことで、良い形で在宅生活のスタートを切ることができた。

また、もう一点は、在宅生活オンリーではなく、計画的な入院を取り入れ、『入院と在宅生活のコラボ』を実現している点である。在宅ではできない、CTや体重測定等の検査や神経内科専門医による内服の調整、栄養指導や褥瘡予防指導を行うことができる。また、入院中は妻の休養を取ることができ、娘達と温泉に出かける等気分転換を図ることができている。入院か在宅かという二者択一ではないことが、妻をはじめ、本事例に関係する専門職の気持ちの余裕を生んでいる。リスクを過剰に恐れ、入院となる事例もあるが、本事例はそうならずに済んでいる。

3つ目は、事業所間の密度の濃い連携にある。荒尾市社協移動入浴ステーションの訪問入浴サービス、株式会社ころによる福祉用具貸与の支援を受けている。様々な事業者が共に悩み、汗を流し、密度の濃い連携を実現している。このことが顔の見える関係以上のネットワークを実現している。このようなネットワークが荒尾市内で益々普及することを切に願っている。

また、事例報告時には、参加者より歯科等口腔ケア専門職の介入の必要性や災害等緊急時対応についてなどの有益なご示唆を頂いた。今後積極的に検討していきたい。

最後に、事例報告に際し、ご協力を頂いた荒尾市医師会様、荒尾市社会福祉協議会様、株式会社ころ様等関係各位に厚く御礼申し上げます。



お知らせ

熊本大学主催の研究発表会

「認知症のひとを支える在宅医療」を
11/29(日)

荒尾総合文化センター小ホールで

13時30分より開催いたします!

皆様、お誘いあわせの上、ぜひお越しください。入場無料です。

(詳しくはHP掲載チラシをご覧ください)



荒尾市在宅医療連携室 在宅ネットあらか
荒尾市宮内 1092-18 (荒尾市医師会敷地内)
TEL:0968-57-9350 FAX:0968-57-9605
http://zaitaku.arao-med.or.jp
ホームページにも載せておりますのでご覧ください。
担当:青木・長岡